



一歩踏み出しています！～1学期、私の挑戦～

今年度、弥生小学校は「挑戦」を大きなテーマに掲げ、教育活動を進めているところです。

現在行っている1学期のがんばりふり返りアンケートに、「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していることがありますか？」の項目に対して、88%の子どもたちが「たくさん挑戦している」、「少しは挑戦している」と回答しています。挑戦することの大切さや、挑戦して得られた達成感などが少しずつ浸透しているのではないかと感じています。

先日、1学期の最後の深いイイ話では、子どもたちに「1学期挑戦したこと」について書いてもらいました。以下に子どもたちの作品を紹介します。

わたしが1学期に挑戦したのは「鉄ぼう」です。習いごとで挑戦しました。鉄ぼうでも、簡単なことではありません。難しい技に挑戦したのです。例えば、難しい地球回りとかに挑戦したのです。その時は、手が痛くて、痛くて泣きそうになりましたが、私ってたくさん努力したんだなと思いました。

ぼくが1学期に挑戦した事は、よく発表する事です。この1学期、恥ずかしくて発表しようとしていませんでした。でも、校長先生の深いイイ話を聞いて、発表も恥ずかしくないと思えば手をあげると間違えてしまいました。でも先生に、「良い間違いをしてくれてありがとう」と言われ、ぼくはうれしくなりました。だから1学期でがんばった事は、よく発表した事になります。そして、2学期にがんばりたい事は、ノートを書いていねいを書くことです。だから2学期も学年目標、スーパートライをしてがんばります。

私が挑戦したことは、「人前に立つ」ことだ。昔は1人でやることや多くの人の前で何かをすることに恥ずかしがっていた。けど、1年生を迎える会の〇×クイズをした。学習発表会よりも緊張した。けど、その緊張はすぐに消えた。友だちと考えた台本と最後のツッコミは、舞台の上から見るとみんな笑顔になっていた。達成感があつた。次は運動会がある。運営委員会ではないので人前に立つことはないけど、ダンスやリレーを本気でがんばろうと思った。

私は1学期、新しいことに挑戦してみて、挑戦することはとても大切だと思った。なぜなら新しいことに挑戦していくと周りのことがよく分かるようになる。そして自分の心も広がると思った。挑戦しているときは、周りの人のことを気付けるときが多い。そして、自分と友だちが団結でき、絆を深められると思う。だから2学期は、新しい挑戦をしていきたい。そのためには、人に優しくしたり、困っている人がいたら助けたりしていきたい。そして学校のお手本として努力していきたい。

挑戦している姿が目に見えます。また、挑戦する自分を客観的に見ることができています。これからも、挑戦する気持ちを大切にしてほしいと願っています。夏休みだからこそできる挑戦もあるはず。素敵な夏休みになりますように。

命を守る行動を！



毎年学校だよりで書くことですが、大切なことなので今年も掲載します。いよいよ、待ちに待った夏休みです。子どもたちは、「あれもしたい、これもしたい。」と期待に胸をふくらませていることでしょう。終業式でも話しますが、特に3つの車（3つともサイレンを鳴らして猛スピードでや



って来ます)のお世話にならないよう、健康と安全に気をつけて過ごしてほしいと思います。詳しくは、「楽しい夏休みを」(学校配付文書)をご覧ください。学級においても規則正しい生活や安全な暮らし等について指導しておりますが、ご家庭におかれましても、しっかり話

し合っていたきたいと思います。特に、熱中症対策、危険な場所で遊ばないこと、不審な車（不審者）に気をつけることや、スマホやゲーム等の利用に関する家庭のルール※が守れるよう声かけをお願いいたします。

※スマホ等によるトラブルは、低年齢化しています。LINE や SNS などでもやり取りをするなかで「書き込んだ内容が誤解された」、「ゲームの中でトラブルになった」、「個人情報」が拡散された」など嫌な経験をすることがないように、保護者の方が使用時間やアプリの制限、フィルタリング等を行ってください。睡眠時間や学習時間が減って不規則な生活にならないよう利用に関するルールの徹底も併せてお願いいたします。



読書のススメ ～夏休みの読書にお薦めの本を紹介します～



『給食が教えてくれたこと』（松丸 著）

学校司書の畑先生お薦めの1冊です。私も紹介していただき、一気に読んでしまいました。著者の松丸さんは、管理栄養士として東京の公立小学校に勤務しておられます。小学校時代は、大の野菜嫌いでしたが、給食を通じて栄養士を目指すようになります。また、栄養士になってからの奮闘ぶりは、まさに「挑戦」の連続です。この本を読んだら、もっと給食が好きになるはず。家庭でもできる給食メニューのレシピもあり、夏休みに、親子で料理をしてみるのもよい思い出になると思います。私は、この本で紹介されている「塩」を購入して、料理に使っています。

高学年対象ですが、とても読みやすいので中学年のお子さんでも楽しんで読めると思います。

『さよならプラスチック・ストロー』

（ディー・ロミート 文 千葉茂樹 訳 スユエ・チェン 絵）

ストローの歴史は古く、約5千年前に発明されたそうです。その後、様々なニーズに応える形で改良が繰り返されていきました。日頃、何気なく使っているストローに、このような歴史があることに驚きます。

中学年の課題図書ですが、低学年の児童にも分かりやすく、大人が読んでも勉強になります。また、SDGsの観点から私たちにできることについても考えさせられる内容となっています。読書感想文が書きやすい本です。また、調べ学習や自主学習の参考にもなると思います。



日頃、読書があまりできていない子どもたちにとって、夏休みは読書に

親しむ絶好の機会です。本との出会いで、今後の自分の生き方や考え方が変わるかもしれません。どんな本を読んだらいいのかわからない・・・という場合もあるかもしれません。時折、そのような質問を受けるときがあります。そんな時、私は「伝記」をお薦めしています。伝記の漫画でもかまいません。伝記を読むことで、その人の生き方や考え方を学ぶことができます。作家・池井戸潤氏原作のドラマ『下町ロケット』のモデルの一人と言われ、ロケットエンジンの開発などに携わっている植松努さんは伝記を読むことの良さについて著書の中で次のような言葉を記しています。

伝記の人はいろいろな困難を乗り越えた人たちです。その人たちが生き延び方を教えてくれます。だから、偉人の生き方をいっぱいコピーして、なりきってみてください。(中略) 大事なことは、ヒーローたちから「あきらめない生き方」をコピーして、なりきるということです。

また、伝記は説明文と物語文、両方の要素がある文章です。読解力の向上にもつながります。この夏休みの読書で、心に残る本が1冊でも多く増えるといいですね。

【保護者の皆様、地域の皆様】1学期も大変お世話になりました。皆様のご協力とご支援に心からお礼申し上げます。2学期も引き続き、よろしくお願いいたします。なお、2学期始業式は8月27日(火)です。また、8月18日(日)はPTA奉仕作業もお世話になります。8月・9月の主な行事予定や授業短縮等は弥生小学校HPでご確認ください。 【弥生小HPは右QRコードから】

